

奥州市議会産業経済常任委員会所管事務調査 会議録

【日 時】令和6年7月16日（火）11：15～12：15

【場 所】奥州市役所 7階 第1・2委員会室

【出席委員】千葉和彦委員長、高橋晋副委員長、菅野至委員、高橋善行委員、佐々木友美子委員、飯坂一也委員、菅原明委員

【欠席委員】なし

【傍聴者】なし

【説明者】佐々木啓二 商工観光部長

門脇 純 商工観光部商業観光課長

金野靖之 商工観光部商業観光課長補佐兼商業振興係長

大平 堯 商工観光部商業観光課商業振興係主任

【事務局】今野美享 総務係長

【次 第】

1 開 会

2 委員長挨拶

3 調 査

奥州市商店街活性化ビジョンの策定について

(1) これまでの策定の経過について

(2) 今後策定予定のビジョンの主な柱とスケジュール等について

4 そ の 他

5 閉 会

【会議要旨】

1 開会

（高橋晋副委員長） それでは時間になりましたので、ただいまから、奥州市商店街活性化ビジョンの策定についての調査を実施いたします。

委員長よりご挨拶を申し上げ、以後の進行につきましても委員長お願いいたします。

2 委員長挨拶

（千葉和彦委員長） はい、先ほどまでの全協、大変ご苦勞様でございました。

本日は今副委員長が開会の挨拶で申し上げましたが、奥州市商店街活性化ビジョンの策定状況について、当局の皆さんからお話を聞き、我々も勉強していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

3 調査

（千葉和彦委員長） それでは時間もありますので、早速進めたいと思います。

出席委員は7名であります。

3の調査に入ります。本日は説明のため商工観光部から佐々木啓二部長、門脇純商業観光課長、今野靖之商業観光課長補佐兼商業振興係長、大平堯商業観光課商業振興係主任に出席いただいております。お忙しいところ大変ありがとうございます。

説明をいただいた後、質疑等を行いながら調査を進めていきたいと思います。

それでは、早速であります、奥州市商店街活性化ビジョン策定について当局より説明を

お願い申し上げます。

はい、佐々木部長。

(佐々木啓二部長) はい、お疲れ様でございます。着座にて説明をさせていただきます。

まず、商店街活性化ビジョンとなっておりますが、合併当時は中心市街地活性化基本計画という形で、国の認定制度があったのですけれども、それを目指して取り組んでいた時期がありました。

ただ、結論とすれば認定には至らなかったのですけれども、まず、都市計画区域の準工業地域に市が独自で規制をかける必要があったというのが、まず一つあります。それから、求められる開発の規模、グレード、予算が非常に大きなものが求められて、なかなか認定のクリアを突破できなかったというところがあります。

そのような状況から中心市街地活性化基本計画は作成するのですが、国の認定を諦めて、市独自の、ある程度自由度のある活性化計画としたというところがそもそもの経緯になってございます。

それ以降、中活計画ということでやっていたのですけれども、活性化ビジョンとして、水沢、江刺、前沢の重点地域に絞った計画としたというところで現行計画に至ってございます。

それで、その計画の周期がですね前計画の終期が、令和3年の3月までということだったのですが、ご案内の通り、新型コロナのパンデミックが非常にこれまで経験したことのないような状況になりまして、まず商業者や飲食サービス業者の、現行のですね、経営悪化に対する支援を緊急にいろいろ進めるということに注力しました。

また、先が見通せない状況が続いたものですから、まずは計画策定を延期せざるを得なかったという状況でございます。

その後ですね、立地適正化計画あるいは羅針盤プロジェクト、あと市街地開発に係る計画策定の中で、それらとの整合性を図る必要が今生じているということで、進捗状況を見ながらですね、今年度新たな商店街活性化ビジョンの策定を進めようとしているものでございます。詳細につきましては資料に基づいて課長から説明します。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) それでは資料をご覧くださいと思います。

まず1番のこれまでの策定経過ということで、平成22年度に先ほど部長から説明がありました通り、中活を策定しておりまして、23年から27年度の5年間の内容のものです。

平成27年に中活の後継プランとして、商店街活性化ビジョンを策定したと。これが28年から令和2年度の5年間でいうことで、重点地域が水沢駅周辺、江刺総合支所周辺、前沢駅周辺の3ヶ所ということでございます。令和2年以降につきましては、これも先ほど部長が説明した通りということで、今現在、新たなビジョンは策定されていないという内容のものです。

資料すいませんが、平成27年に策定しました商店街活性化ビジョンの方をご覧くださいければと思いますが、よろしいでしょうか。

では進めます。このビジョンのそれぞれのページ下にページ番号を振ってございますので、まず1ページをご覧くださいと思いますが、ビジョンの策定の目的と位置づけということで縷々書いてございますけれども、まずこの商店街活性化ビジョンって何かっていうことですが、文字通り商店街の活性化を図るための計画ですよということです。

このビジョンは、総合計画の下部計画といいますか、下位の計画ということと、都市計画マスタープランとの整合性を図るとことで、当時策定したものでございます。

以降のページの内容についてはすみません、説明は省略いたしますけれども、要は商店街の活性化のために、基本的にはソフト事業を実施しようというビジョンでして、このビジョンの後半の方に具体的な事業名等が記載されてございますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

それではすいません、資料戻ります。

本日の資料の2番目の今後の策定予定のビジョンの主な柱についてということでございますが、ここから説明します中身につきましては、あくまでも事務レベルの検討段階の内容として、市長等からの協議を経た、正式な中身ではないということをまずはご了承いただきたいと思います。

ビジョンの主な柱ということですが、正直、これから動き出そうとしているところですので、具体的には何を柱に策定するのかというような検討にはまだ至ってございません。ただ基本的にはこれまでのビジョンを踏襲して、水沢、江刺、前沢の3ヶ所を重点地域に設定するという方向ではいいのかなという考え方です。

それから今後ですけれども、策定に当たっては、このビジョンの策定委員会を設けて、意見聴取しながら進めたいという考え方になります。策定に当たりましては、立地適正化計画や未来羅針盤図等の整合性に配慮して、方向性を一致させることも重視しなければならないという考え方になります。

それでは次のページをご覧ください。今後のスケジュールですが、これまで議会で、私からはこのビジョンについては何とか今年度中に策定したいという話を何度もさせていただいておりましたが、これまで事務方レベルでいろいろ検討し、あるいは会議所さん商工会さんの担当者のご意見もこの間お聞きする場がありまして、検討した結果ですね、今年度中の策定はちょっと厳しいだろうという判断でございます。

具体的にはですね、今年度中に策定しようとしても、まず時間的に厳しいだろうと。要は中身、なんていうのですかね、先ほど説明したビジョンの内容をちょっとリニューアルする程度にしかならないということになるのではないかとということと、一番大きいのは、総合計画との整合性を図らなければならないのですが、今の総合計画の後期計画は、令和9年の3月までということで、おそらく令和8年度に新たな計画の策定作業が始まると。令和8年度の策定作業に向けてですね、その前の年度の令和7年度にある程度、商店街の計画といいいますか、方向性を決めておく必要があるのだろうなという考え方から、ちょっと時間をかけて策定した方がいいのかなというのが、今現在の事務レベルでの考え方です。

そうなりますと、この表の通りですね、まず今年度から委員会を設置して、適宜何回か開催しながら内容を詰めていくと。大体来年度の令和7年度に入って、7月末なりに、大体の原案ができて、10月頃ですかね、原案ができて、新年度、要は令和8年度の事業に向けた予算要求なり、総合計画実施計画のローリング、いわゆる計画の見直しに反映させるというような流れが適切だろうという考え方です。ここでは10月となっていますけれども、大体最終案がこの頃ということで、その後に全員協議会で説明をさせていただきまして、年明けで商工審に諮って、最終的に決裁を受けて、令和8年4月からの5年計画となるのかなという想定で今現在考えてございます。

次のページをご覧ください。資料1を見ていただきますが、これがですね、これまでビジョンを策定してきた中での検討組織の体系となります。まず市長の諮問機関であります商工審、商工業振興審議会に諮って最終的に決定となりますけれども、策定に当たっては、商店街活性化ビジョン策定委員会を設置したいと考えてございます。

その委員会の下には、これまでですと幹事会なり、ワーキンググループを設置しましてワーキンググループは、特にも水沢、江刺、前沢の3ヶ所にそれぞれチームを設けて検討してきたという内容のものであります。さらにはこのビジョンの、何て言いますか、事業の評価なり改善策の検討をするための商店街活性化推進チームも設置してきたという経過がございます。

今回につきましては、この幹事会にあるワーキングのメンバーがこれまで重複していた人がいらっしやったり、ちょっと幹事会とかワーキングとか組織をいっぱい置くのもどうなのかという反省点や課題がありましたので、その辺を少しスリム化しようかなという考えでお

ります。

次に、資料2をご覧ください。資料2はこれまでビジョンに基づきまして、実施してきました事業の一覧となります。令和4年度、5年度、あとは今年度の予算枠ということで記載してございます。

まず、全体としては、創業支援事業ということで、何かお店を開いたりとか事業を始めたという方々に対しての支援ということで進めてきておりまして、今年度は予算を増額しまして、約1,200万円の予算ということになります。

重点という部分で、やる気結集まちづくりということで、これは主にメイプルを核とした、何と申しますか、集客効果なりの高い事業をやってもらおうということで、ビジョンで定めた事業でして、特にも令和5年度は270万円の当初予算に対しまして、28万8000円しか事業実施できてないと。これはメイプルの商業テナントが撤退したというのも大きい理由であります。

それから、水沢につきましてはオープンカフェなり、高校生、テナントミックス、教養文化とていう事業がありましたけれども、これもメイプルの撤退の影響が大きいと。あとはメイプルの撤退とコロナ禍で事業が止まっていたとかってというようなこともあったということでございます。

江刺につきましては、蔵まち市、水曜市、ほろ酔い横丁、それからグルメ関連の事業とか、この間、開催されましていすー1GPなどに予算をあてていると。

そして前沢につきましては、1事業ですけれども、商店街の活性化ということで、事業概要に記載のとおりという中身になってございます。

令和4年度の当初予算額は約6,600万円、実績が5,200万円に対して、令和5年度はメイプルの閉店が一番影響が大きいのですが、当初予算額で1,600万円、実績で1,500万円、今年度は当初予算で1,800万円ほどの事業を見込んでいるというようなものでございます。

簡単ですが、説明は以上でございます。

(千葉和彦委員長) はい、ありがとうございました。以上で説明が終わりましたので、引き続き質疑を行いたいと思います。はい。飯坂委員。

(飯坂一也委員) ありがとうございます。何と言いましてもビジョン策定委員会が重要だと思っていますが、前回ですね、15人いたうちの女性が1人だったのですね。それで、このことを申し上げたのですが、既に決まっていたので、これは何ともならなかったのですが、やはり商店街活性化、女性の視点であったり、あと、多様な視点ということが大事だと思うのですが、このあたりをぜひ検討していただきたいなと。前回15人中1人だったということをごどのように考えるでしょうか。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) 先ほども申し上げましたけれども、あくまでもまだ我々としてはスタートし始めたばかりで、具体的な検討はこれからです。

ご指摘の女性の委員さんが前回少なかったということですが、市長もいろんな場面で若者の登用とかいろいろ言っていますので、女性だけでなくそういった、これから事業を進めていくであろう若い人たちなどの参画というのも考えていきたいなと思います。ただ、それが委員さんとして必要なのか、ワーキングなりという実働部隊の方で必要なのかは、ちょっと今後の検討かなというふうに思っております。

(千葉和彦委員長) 飯坂委員。

(飯坂一也委員) 今後の検討ということで、ぜひ取り入れていただきたいなと思っていますが、専門的知見、専門的な研究者の知見というのはどこに入るのかということも質問したいと思います。これからであれば、ぜひ検討していただきたいと思います。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) 前回の委員の構成なりでは、専門的知見というか、学識経験者ということで、

大学の先生を委員会の方でお願いしていたという経過がございます。

これは私個人のイメージなのですが、ワーキングは実際そこにて、現状がどうでどういう課題があって、今後どうしていきたいのかというようなことを集中的に議論する場なのかなと思っておりまして、そういうところに、やっぱり若い方とか女性の方は必要なかなと。委員会はどちらかというと、専門的な知見を要する、持っている方とか、あるいは商工団体なり、観光関係団体の代表の方に来ていただいてご意見いただく場なのかなというイメージではおりました。いずれちょっとどういう構成にするかは今後検討させていただきたいと思います。

(千葉和彦委員長) ほかにございますか。菅原委員。

(菅原明委員) はい、どうも大変ご苦労さまでした。1点お伺いします。

商店街活性化ビジョンがどんどんこれから進められるということですし、都市整備部でこれから進めていくという立地適正化計画のまちづくりの関係と、このビジョンが今後ですね、立地適正化計画でまちづくりが作られていけば、商店街の活性化ビジョンについても、何か関わりがあってですね、こう変わっていくとか、その辺の関係についてどのようなお考えなのかお伺いしたいと思います。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) 先ほどの資料の2番の主な柱のところでも若干触れさせていただいたのですが、やはりこの立地適正化計画というまちづくりの広い範囲の計画があって、さらにその中の商店街の振興について、活性化についてのビジョンを作ろうとしているところですので、広い範囲の立地適正化計画の中身と相反したようなものは、当然変な話になっちゃうので、やっぱり整合性をとりながらということになるのかなと思います。

例えばですね、立適なり、未来羅針盤図の方で、特に水沢市街地エリアプロジェクトですと、水沢公園の方まで含んだ範囲ということになります。一方、現在のというか、今の商店街の活性化ビジョン、水沢だけに限ってお話すれば、まず駅通り、中央通り、横町、立町あたりだけになっちゃいます。例えば昔、商店街と言われていました、袋町などは今現在は入っていないという感じになります。

立適の計画の区域をさらに絞った、本当に商店街をどうするかという計画ということになります。ちょっと説明になったかどうかあれですが。

(千葉和彦委員長) はい、他にございますか。佐々木委員。

(佐々木友美子委員) 何か質問自体が迷っているのですが、今のところで、未来羅針盤図の図はイメージとして、今の現状からすると、今度の医療センターとか、駅周辺とかっていうイメージがわくのですが、この商店街活性化ビジョン、所管が商業観光課だからそういうことになるのですが、商店街活性化ビジョンっていうタイトルを、今現在聞いたときに課長がおっしゃったように、例えば水沢だったら商店街ってどこだろうという、なんかもう既に、だからどこを活性化するためのビジョンなのかっていうのが、もう既にわからなくなっているような現状なので、私が何を聞きたいかもちょっと今迷っていて、戻ってしまっていますが、中心市街地の活性化はわかるのですが、商店街活性化ビジョンっていうものの策定そのものについての、必然性というのがどう捉えればいいのでしょうか。

ちょっとすいません、なんか漠然とした質問で。

(千葉和彦委員長) はい、門脇課長。

(門脇純課長) あくまでも先ほど言いましたように、商店街っていう3ヶ所に限った計画を作ろうということですが、ここだけの話というのかもしれませんが、この間ですね、先ほども言いました会議所なり商工会の事務レベルとも協議したとお話をしましたが、確かに商店街っていう括りがそもそもどうなのかということも話題にはなりました。

例えば、創業支援につきましても、商店街の今設定されている重点地域内で創業するのであれば支援しますっていう制度なのですが、ちょっとそこから外れた場所にお店出した

いとかってなってしまうと、ちょっとまずいよねということで、その辺についてはもうちょっと広く、対象エリアを広くしてほしいという意見も実はこの間あったのです。

そもそも論で、農業であれば農業振興ビジョンということで、水稻、野菜、園芸、畜産とか担い手育成とかいろんなことを、こうやっていきましょうねっていう目標を定めているものがある。

一方で、商業そのもののビジョンって何なのだろうっていうところにも行き着くわけですが、この間のレベルでは、ちょっとそこまでは、あくまでもまずは商店街をどうしようかっていうビジョンでいいのではないのという感じだったかなと思います。

集まったメンバーの中には、そもそもビジョン作らなくても事業がやればいいのかというご意見もちょっとはありましたけれども。

なので、確かに気持ちはわかります。商店街っていう、そもそも位置づけをどうするのかとか、商店街だけ活性化すればいいのかとかいう、いろいろな考え方もあるのはその通りだと思います。

ここはですね、我々もどう整理したらいいかはこれからなろうかと思います。

(千葉和彦委員長) 他にはございますか。副委員長。

(高橋晋副委員長) はい、よろしくお願いします。

私自身も商工会議所の議員でもありますので、何となく、江刺というか、奥州商工会議所でどういうことをやっているかということを知りつつ、このビジョンを見ておるのですけども。

まず、前の27年度までのビジョンでの達成度とか、反省というか、どういう結果だったかっていうのは現時点で踏まえているのかというところが一つ。

それから、この27年までの計画を改めて見せていただきましたけれども、大体各商工会議所、商工会の事業とリンクしているような恰好ですけども、これは事業ありきなのか、補助金ありきなのか、そこら辺、こういう補助金があるのでこういう事業できますよというようなことで、実際の事業が決まっていくのか、本来というか、多分こういうビジョンに基づいて、こういう補助金がありますということなのかなとは思いますが、そこら辺の仕組みを教えていただければと思います。

資料2に関してですけども、この令和4年から6年っていう現在進行形というような部分ですけども、ここはビジョンはないけれども、現状こうですよという捉え方で読めばよろしいのでしょうか。タイトルに商店街活性化ビジョンって書いてありますけれども、ビジョンはないですね。

なので、先ほど課長から、ここだけのという話の中で、ビジョンなくてもいいのではないのという話があったということですけども、ビジョンはないのだけれども、それぞれ商工会議所、商工会でやっている事業というのはあって、補助金がついているからなのかもしれませんが、その辺がピンとこないというか、その辺を教えていただければと思います。

あとは、先ほどの佐々木友美子委員からもありましたけども、江刺で言いますと、未来羅針盤図の中に、市街地活性化っていうエリアが、また外れた1ヶ所だけ関わっていますよね、イオン跡地だけは、商店街の中に、エリアの中に入っているようですけども、それ以外の市役所でね、総合支所近辺は入ってはいませんが、そこら辺もやはり今回の商店街活性化ビジョンの中のエリアには入らないのか、そこら辺を教えていただければと思います。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) はい、まず1点目のですね、ビジョンの達成となり反省をどうふまえているのかというご質問でしたけれども、正直まだ何も検討といいますか、検証といいますかはやってないのが正直なところです。先ほど資料で、資料の1でお話ししました通り、商店街活性化推進チームというものを設置してそういった検証を行うということにしていたので、いずれは機をとらえて、検証なりはする必要はあるのだろうという考えではあります。

それから、会議所等との事業とリンクしておって、事業ありきなのか、補助制度がありきなのかということでしたけれども、そもそも論で我々がこの資料2にあるような事業の予算要求をする根拠として、このビジョンを定めていたということになります。

当然、市とすれば、補助ありきというよりも、やっぱり事業やってもらいたい、活性化するための事業をやってもらいたいということでやってきたわけですし、今後、この商店街活性化ビジョンつくるということであれば、その計画があつて初めて、その計画が根拠となつて予算要求して、予算をつけていただいて、事業をそれぞれの商工会さんなり、商店街の皆さんにやっていただくというようなイメージなのかなと。市が主催でやるというではなくて、そういった商店街の関係者に事業をやってもらうという内容になります。

それから、資料2の事業も今お話しした通りで、今現在ビジョンというのは、計画の期間が終わっていますけれども、いずれ、冒頭に説明した通り、様々な理由で定められてこなかったということです、これまで定めていたビジョンの中身を準用しているというのか、応用をしていると言ったらいいのか、そういったことでの位置づけということになります。

それから、ビジョンのエリアですけれども、これも今度策定にあたっては、検討するということになります。今現在、我々として、前回のビジョンのエリアをそのまま引き継ぐか、どうしようかというのは、まだ何も検討はしていません。以上です。

(千葉和彦委員長) はい、副委員長。

(高橋晋副委員長) はい、ありがとうございます。

一つだけ、補助金っていうのは、国だったり県だったり市だったり、それからあと日本商工会議所の補助金だったりとか、様々なものなののでしょうか。そこら辺ちょっと教えていただければと思います。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) はい、補助制度ですけれども、正直言ってこういった商店街を活性化するためのソフト事業に対する国、県の補助は、正直ないと認識しています。あくまでもそれぞれの市町村独自なのかなと。一方で、会議所さんなり商工会の事業に対しては、そういった上部団体から何らかの補助制度があるのだろーと思います、詳細の把握はしておりません。

中心市街地活性化法に基づいた、先ほどからご説明しています、中活が国で認められる、認定されれば、それなりに国からの何らかの支援はあると思いますけれども、ただそれってどちらかということかなり予算規模のでかい何億、何10億規模の事業になるのだろーと思います。以上です。

(千葉和彦委員長) 副委員長。

(高橋晋副委員長) はい、ありがとうございます。

一つ、先ほど佐々木委員からもありましたけれども、商店街の捉え方なのですけれども、多分商店街って、国なりが決める商店街っていう言葉を使うには、本当はお店が何軒以上とか、エリアがどのくらいとか決まりがあるようなのですが、私がかつて江刺の商工会議所で聞いたときには、江刺にはそれに該当する商店街は一つありませんというふうな話を聞いたことがあります、元々商店街じゃないというか、商店が集合しているエリアというような感じなのですけれども。水沢がどうだったのかちょっとあれですけど、例えば江刺ですと、ほぼ江刺も類に漏れず、商店街ってどこですかって聞かれると住んいでる人も答えられないような感じになっておりますが、江刺は今、全ての商店街が商店街だつていうエリアで捉えるしかないのかなと。水沢もそうなのかなっていう感じもしますけれども、そこら辺の、ビジョンを作る上では、今私が言ったような商店街っていう決まりみたいなのは関係あるのでしょうか、ないのでしょうか。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) ちょっと調べてみたのですが、これ、都市計画法なのですかね、定めているものがありまして、商店街っていうのは小売とか飲食店、サービス業が近接して30店舗以上あ

るものをいうと定めているものがあります。

本当にこれを全部該当させて、商店街か商店街じゃないかっていうことでエリアを拾うという手もあるのだと思います。

ただ、この近接施設がどの程度までかとかですね、例えば、水沢だと駅通り商店街、横町でも一番街とか何とかとか大町とかって、それぞれ商店街があるのですが、なんていうのですか、それらをはがっちゃんこした大きい括りの商店街でも商店街って言えるのかとかですね。その辺をどう見るのかとのいうのはあるかと思います。

28年度からのビジョンについては、それぞれのその商店街振興組合なりがある、いわゆる通常、商店街って言われている、例えば江刺だと川原町なども一つの商店街としてあるのですが、そういったところがあるところをエリアに括っているというのが、ビジョンでいう重点地域になっているということです。

今後はどうするかということになるのでしょうかけれども、それも今度は策定委員会なりでの議論になるのだらうと思います。

(千葉和彦委員長) 佐々木部長。

(佐々木啓二部長) すみません、ちょっと補足をさせていただきたいのですけれども、商店街についての明確な定義っていうのは一応国の方ではないと言っていまして、門脇課長から言ったのは、商業統計における商店街の定義ということで、商業統計とるときは30店舗以上というところで商店街として見ているということになりますので。

そういう意味からいくと、課長からあったように、我々が今後検討していく段階で決めていくということになるのだと思います。以上です。

(千葉和彦委員長) はい、他にございますか。佐々木委員。

(佐々木友美子委員) すみません何度も。このビジョンを今年度じゃなく来年度っていうことで、のびたっていうことで、ゆっくり検討できるのだなっていうことでちょっと安心したのですけれども、そのタイトル、やっぱりさっき言っている商店街っていうのが何かストンと落ちないのが、例えば商業活性化ビジョンとかってできないのかなんて、ちょっと思ったりするのですけど。

市長は毎週ラジオ放送していますよね、市長何とかって。朝、私も聞くのですけれど、先週メイプルの特集で、ラジオで言っていたのですが、もうメイプルは商業施設ではありません。昔のようにメイプルに行くと何か物が買えるっていう施設ではなく、物の拠点ではなく、人の拠点にしますっていうことをラジオで言っていて。だからオフィス、テナントを入れて、オフィス、テナントで人が集まることによって、それに関わるなりわいが、その近隣に広がっていくことで活性化したいっていうようなお話だったとするならば、それがセットプランで出てくるとは思うのですけれど。

そうすると、やっぱりそのメイプルを中心に、今まで水沢であれば商店街活性化ビジョンっていうのが組まれたとは思っているのですけれど、メイプル自体が商業施設という扱いをしないとなってくると、やっぱりあそこに商店がもう経営者今いないので、工業団地に会社を持って、商業をなりわいやっているような方々もたくさんいらっしゃる。そういうことでは、商店街活性化とは言いつつも商業活性化ビジョンなのかなと思ったりして、その辺も含めてじっくり検討いただければいいかなという意見を持ちました。以上です。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) 先ほども言いましたけれども、農業振興ビジョンがあるように、商業振興ビジョンがあってもいいのかという議論も当然出てくるのかと思いますが、あくまでもそのエリア、水沢の駅前周辺、江刺の総合支所周辺、前沢の駅前周辺とかこの三つはこれまで重点地域と定めて、あくまでも商店街に特化した活性化の計画だということです。

まちづくりを考えればもっともっと広い範囲の計画になります。当然、我々の守備範囲ではなくなると。では、もうちょっと絞って、商業振興となった場合、どういう計画を定めれ

ばいいのかとか、商業の振興と言っても、一口で言ってもすごく幅広いわけです。それを例えば新たに作りましようと言ったときに、本当にこの短期間で作れるのかどうかということもあります。

あくまでも今やろうとしているのは、その商店街の活性化をどうするかという事を進めたいということなのですけども。確かに、先ほども言いましたけれども、会議所なり商工会の事務レベルとの協議ではそういった話もありましたので、今後、市長協議とかもしていく中で、どういう方向性でいっていかけるのかも検討する材料になろうかと思います。

(千葉和彦委員長) ほかにございますか。菅野委員。

(菅野至委員) はい、ちょっと時間がない中で大変恐縮なのですが、もうちょっと細かいところをつつくようで申し訳ないのですが、資料2のところで水沢の中に、高校生店舗開発事業があったのですが、ここは令和4年度、令和5年度で予算がついているところなのですが、0円となっているのですが、これはどういったところを目指して予算をつけて、交付実績がなかったかというところが1点と、この件に関しては、平成28年度からのビジョンの中で、商店街の商店経営者等の高齢化、後継者不足等の中で、若返りを図りますっていう文言があるのですが、この28年度からビジョンあった5年間の中で、この実績というかですね、そういったところがあったのか、なかったのか、というところをお伺いしたいと思います。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) まずですね、資料2の高校生店舗開発事業でR4、R5が実績ゼロということで、場所がメイプルでやっていたということもありましたし、実際に仕掛けていただく方、事業者の方で、学校に声かけたのだけれどなかなか集まらなかったということで、実績ゼロということだったと思っています。

過去には、やっぱりメイプルの閉じる前は、事業やってきてですね、メイプルで例えばチャレンジショップ的なのでしょうか、高校生がお店を開いて商売の練習といったらいいのか、そういったことをやってきたという実績はあります。

(千葉和彦委員長) はい、菅野委員。

(菅野至委員) はい。ありがとうございます。1点目については承知しました。

2点目なのですが、ちょっとここまでいくと深くなってしまうかと思うのですが、例えばそういうチャレンジショップとかやった中で、あったかないかというところまで掘り下げるとあれなのですが、例えば商店街で何か事業始めたとかっていうのがあれば、本当は良かったのでしょうか。なので、結局その高校生がそうやってチャレンジできる場っていうのをちょっと見て、これすごくいい事業だなと思っていたのですが、そういった人が、例えばこれからビジョンを作る中で、後継者としてやっぱりあそこでやったからよかったねっていうのを元にやればいいのかと思うので、そういうところに繋げていただければなという思いを持ってこの質問をさせていただいたのですが、その辺の所感をお伺いして終わります。

(千葉和彦委員長) 門脇課長。

(門脇純課長) はい。そういった実際にその商店街とかで事業を始めたっていう実績はちょっと把握はできていないです。確かに、目的はそこなので、ただ単にチャレンジショップやってもらって終わりが目的ではないですので、当然そういった繋げていくというのは大事なのだと思います。ちなみにR4、R5の実績はなかったのですが、水沢の産業まつりで商業高校とか農業高校とかですか、実際にお店出してというのを、直接この事業ではないですけども、そういった体験的なことはやってもらっているという例はありますので、ご紹介させていただきます。

(千葉和彦委員長) はい、他にございますか。それでは時間も迫っておりましたので、以上で所管事務調査の方を終わらせたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。ないようですので所管事務調査については以上で終了いたします。大変お疲れさまでした。

商業観光課の皆さん、大変ありがとうございました。はい、それでは退席をしていただいて。ありがとうございました。

<12:03 商業観光課職員 退席>

(千葉和彦委員長) それでは皆さんに事務連絡です。本日の所管事務調査については、9月定例会において委員長報告を行うこととなります。

様式は任意といたしますので、本日の所感を7月31日水曜日までに担当書記に提出をお願いいたします。

提出された所感と本日委員の皆さんから出されました質疑等を集約させていただきまして、調査をまとめたいと思いますが、報告の原案を委員長副委員長にご一任いただくということで、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

異議なしと認め、そのように決しました。

4 その他（省略）

5 閉会

(高橋晋副委員長) 以上で産業経済常任委員会の所管事務調査を閉会いたします。お疲れ様でした。